みんなで育てよう、緑豊かな私たちの森！子ども達に贈る自然いっぱいの森

能ヶ谷西緑地だより

2023年 12月 1 日号 285号　能ヶ谷西緑地・樹の会

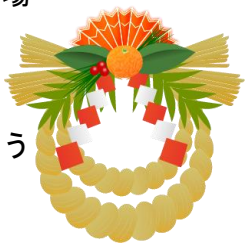
【12月の予定】

◆12月9日　（ 土 ）　（ 雨天翌日）
・花広場整備
・輪飾り作り
◆12月23日　（ 土 ）　（ 雨天翌日 ）
・中央広場整備
・納会
＊ 9:00　現地集合　（ 9：00～ 11：30）
◆12月9日　（ 土 ）　（10：00～12：00）
・ヤママユ連は、輪飾り作りに合流します

問合せ　：　伊藤　（735-8623）
どなたでも参加自由です。
作業には汚れても良い服装でおいでください。

！恒例　輪飾り作り！

日時：12月9日　10:00～12：00（雨天中止）
場所：能ヶ谷西緑地　中央広場
参加費：200円
持ち物：はさみ



地産の藁でお正月を祝いましょう
初心者歓迎、お気軽にどうぞ
（直接会場にお越しください）

※※※※※※　**緑地だより**　※※※※※※

11月11日（土）　晴　参加者11名

花広場やヤマユリ斜面の草刈りをした。ようやく秋らしくなり、草の伸び方も少し落ち着いてきたようだが、まだ勢いの残っているクズを中心に刈っていった。

小田急住宅下の山斜面に、大きな葉っぱがもこもこしていて、びっくり。近寄って見ると、夏に切られたホオノキの脇から、ひこばえが出ているのだった。赤ちゃんの木の、すごい生命力！

ホオノキの赤ちゃん

ムベが今年はいっぱい実っている、ピンク色にきれいに色づき始め、収穫をした。さっぱりした甘さなのだが、ほとんどが種なので食べるところは少ない、何かうまい使い方はないものだろうか。

作業後の話し合いで、今年の輪飾りを9日にやることが決まった。輪飾りが話題になるともうすぐ年末になる。今年も残すところあとわずかだ

（小川）

11月25日(土)　曇り　参加者　7名

なら枯れ病に罹っていたコナラの太い枝が何本も枯れ落ちた。南側の急斜面、折れた枝が梅やサネカズラに覆いかぶさっている。滑り落ち易い斜面での片付けは危険が伴う。足元に気を配りながら次々と枝を運び上げた。

休むことなく桜広場へ向かい、伸びた植物を刈り取った。はびこった丈夫なクズは刈り払い機の歯に纏わり着くし、センダングサの種は服に引っ付くし、細い竹もあちらこちらに生えている。改めて植物の生きる力に圧倒される。

広場の整備も滞りなく終え、11時過ぎには全ての作業を終えた。

Ｏさんが焙じてきた「決明子（ケツメイシ）」（市販名：ハブ茶）を頂きながら、次回の作業について相談し、散会した。

（かつた）

ノコンギク

【緑地の樹】

カキノキ（柿の木）

カキノキ科　カキノキ属の落葉樹

緑地の花広場に、二本の柿の木があります。15年ほど前に芽を出したものが育ったのです。”桃栗三年柿八年”と言われますが、8年経っても実がならず、何回か「邪魔なので切ってしまえ」という声の中で、守ってきたのです。

二本のうち一本が、昨年4～5個の実をつけました。10年以上待っていた実だったので、どんな味か食べてみたかったのですが、もう何年も作業にも参加せず、5個ばかりの実をいただくのは憚られ、諦めました。　今年はどこの柿も生り年のようで、緑地の柿の木も、我が家の窓から見るところ50個くらい実をつけ、赤くなり始めていたので、味見をしたいと話したところ、「あれは渋柿で誰も採りません、ご自由にどうぞ」ということでした。

渋柿と聞き、長年の期待が裏切られ、心底がっかりしましたが、思い直し干し柿にチャレンジすることにしました。

一人ではとても収穫も干し柿作りもできそうにないので、10月2回目の作業日に高枝切りバサミを持って、0さんと収穫しました。50個くらいはあると採り始めましたが、先客が味見した跡があり、柿に穴が開いています。鳥のつついた穴です。鳥も、渋いのがわかると即やめてしまうらしく、どの柿も一カ所だけ穴が開けられていました。結局無傷で人間さま用には25個ほどでした。0さんと分けて持ち帰り、干し柿に挑戦しました。

良いお天気にも恵まれ、2週間ほどでおいしい干し柿ができました。活動日に持参し、好評を得ましたので、来年も干し柿作りのお役を引き受けようかと思っています。

（齋藤泰子）

【緑地に咲く】イモカタバミ（芋傍食）

カタバミ科カタバミ属の、地下に芋を作る多年生草本。

初夏から秋にかけて、直径1.5cmほどの赤紫色の花を多数咲かせます。夕方になると葉が閉じて、欠けたように見えるので「カタバミ」という名がついたそうです。日本へは戦後、観賞用に輸入され、野生化しています。

（長谷部）

木守り柿

干し柿は食べてしまったので、これは我が家の柿

◆ 緑地内は自然緑地として保全をしています。
怪我しないよう十分に気をつけて楽しんでください。

◆ ご意見がありましたらnishiryokuchi@gmail.com まで

「緑地だより」編集：小川

「能ヶ谷西緑地・樹の会」のHP（毎月末に更新）
http://home.a03.itscom.net/ryokuchi/
配信希望の方は、nishiryokuchi@gmail.com まで

【緑地を楽しむ本】

『街の自然観察』

矢野 亮 著　筑摩書房

　観察とは目の前にあるものを注意深く見ることだと思っていたが、場所や時間を広げて見ていくことで様々なものがわかってくる。例えばシジュウカラがさえずった場所や雄同士のけんかをしていた場所を地図に書入れ、線でつなぐとなわばりの範囲がわかる。時間を広げて調べると、なわばりの広さや数が変化していることがある。それによってその地域の自然の状態の変化が示されるということや、セミの抜け殻を集め、1週間ごとに調べるとセミの種類や出てくる時期でその年の天候がある程度わかるということが書かれている。一つずつの事柄を積み重ねて、一般的なことにたどりつく科学的方法はこういうことでなされるのだと納得した。

　西緑地は街に近いところにあるが街ではない。そこでは木、草やそれらに集まる虫、鳥が姿をみせる。30年以上前に書かれた本なので現在ではここに書かれたものの内の幾つが街といわれる場所で見られるだろうか。西緑地のような場所のほかに自然観察を楽しめる場所としての街はあるだろうか。

　この本では春の福寿草、タンポポのように好きな人が多いだろうものから冬のムカデ、ヤスデやハエなど「うわー！いやだ」という声が聞こえてくるものまで四季それぞれに特徴的なものを観察する視点を教えてくれる。中高生向けに書かれたもので読みやすく、見つけたものの名前を調べるのに便利な表が幾つかのものについて載っている。冬なら「土の中の虫」「木の顔」と「雑木林の木の肌」という具合。葉や実を使った工作も椿の葉の虫かごやカラスウリのちょうちんなどが紹介されていて作ってみたくなる。

（宇野）

【やままゆ連・手作りカフェー】

手仕事いろいろ

11月4日（土）　10：00～12：00　平和台集会所

　今日は参加者が少ないので、それぞれ手仕事を持って来ました。前回の続きの手製織り機のコースターを仕上げる人、編み物をする人、柿渋で染めた綿糸をカセに巻く人、折り紙する人、みんなの為に茶道具持参でお茶を点てて下さる人などです。いつもはテーマを決めて集中して手仕事するのですが、今日はなんだか気楽な集まりになりました。その分、口も軽くなり、近況報告が飛び交います。

　先月インド旅行をしたＳさんからは、インドのルピー札を見せてもらったり、市場や有名なタージ・マハルの話。福岡の海岸でカブトガニを見学してきたＯさんは、折り紙でカブトガニを折って見せてくれました。Ａさんからは、先日のハローウィンのお菓子を貰いに来る子どもたちで楽しんだ話などです。

　作業終了後、持参のそれぞれの茶碗でＡさんが点ててくださった美味しいお抹茶を頂きました。

　決まったテーマはなかったけれど、なんだか心楽しいひと時を過ごせました。

カフェメニュー　和菓子など。

（桑原）

柿渋で染めた糸とカセ